

(別紙2)

論文審査結果の要旨

氏名 金春和

金春和氏の論文「18世紀ロシア詩におけるホラティウス」(英語論文。原題 Horace in Eighteenth Century Russian Poetry)は、18世紀ロシア詩が西洋古典文学を代表する詩人のひとりホラティウスから受けた影響を考察し、この考察を通して18世紀ロシア文学の特質を明らかにしようとしたものである。

論文は序および本論5章によって構成されている。本論ではロシアにおけるホラティウス受容の考察にとりかかると先立ち、第1章で18世紀ロシアに多大な影響を与えたフランス古典主義を、また第2章ではそのフランス古典主義においてホラティウスが果たした役割を考察する。その後第3章では18世紀ロシアの文学状況について説明し、当時のロシアにおけるホラティウス受容を示す代表的な例として、第4章ではカンテミール(1708-44)の諷刺詩に与えた影響、第5章ではロモノソフ(1711-65)とデルジャーヴィン(1743-1816)の頌詩に与えた影響を分析している。

金氏の論文はまず、18世紀ロシア詩という先行研究の少ない領域を取り上げ、それをひとりではなく複数の作家の創作活動にわたって考察しようとした意欲的な仕事であった。またホラティウスの作品とロシア作家の作品をともに原語テキストで分析し、比較考察することは必ずしも容易な作業ではないが、臆することなく困難に取り組んだ点も評価されるであろう。

ただ野心的な試みであるだけに、不足の点も認められた。本論では18世紀ロシア詩の基本的特徴を古典主義的形式にあると結論し、ホラティウス受容もその枠組みの中で理解している。しかし18世紀ロシアの文学は極めて複雑な様相を呈しており、古典主義的な特徴のみで説明することには疑問も残る。バロック的な要素を考慮しつつ、より広い視野で作品を考察することが望まれるであろう。また、ホラティウスからの影響に関しては、ホラティウス作品の翻訳紹介の歴史の確認、作家の手法の比較、複合的な影響関係の調査など、多様な研究方法が可能であり、方法についてもより周到な準備がなされるべきだったという反省もある。

しかしながら、18世紀ロシア文学における諸外国文化の影響、特に西洋古典文学の受容の研究は極めて重要であるにも関わらず、テキストを理解する上で数多くの言語についての知識が必要とされるため、日本ではむろんのことロシア本国においても研究が進捗しているとは言い難い。金氏は時間と労力を惜しむことなく費やしてそれらの言語を習得し、原語でテキストを読解、分析して、その成果を纏めたのであり、本論文が18世紀ロシア文学研究に貢献する重要な仕事となったことは明らかである。

審査委員会は以上の点を評価し、全員一致で本論文が博士(文学)の学位に値するものであるとの結論に至った。